

## ヨハネの福音書 (58)

### 「復活」

ヨハ 20 : 1～18

#### 1. 文脈の確認

##### (4) イエスの受難 (18～20 章)

- ①イエスの逮捕 (18 : 1～11)
- ②イエスの宗教裁判 (18 : 12～27)
- ③イエスの政治裁判 (18 : 28～40)
- ④有罪判決 (19 : 1～16)
- ⑤十字架刑 (19 : 17～30)
- ⑥埋葬 (19 : 31～42)
- ⑦復活 (20 : 1～18)

#### 2. 注目すべき点

##### (1) 「福音の三要素」は歴史的事実である (1 コリ 15 : 3～5)。

- ①キリストは、私たちの罪のために死なれた。
- ②また、葬られた。
- ③また、3 日目によみがえられた。

##### (2) この箇所は、イエスの復活をめぐる最初の目撃証言である。

- ①空の墓は客観的証拠であり、主に出会うのは個人的経験である。

イエスの復活は歴史的事実である。

ペテロ、ヨハネ、マグダラのマリアの体験がそれを証明している。

#### I. ペテロとヨハネの経験 (1～11 節)

##### 1. 1 節

Joh 20:1 さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。

##### (1) 「週の初めの日」は、イエスが復活した日、新しい創造の始まりの日である。

- ①マリアは早い時間に墓に行き、その後日の出とともに他の婦人たちと合流。

##### (2) 神は、証人としての信頼性に欠ける女性を最初の復活の証人に選ばれた。

- ①復活の歴史的信頼性は、神の逆説的選びによって証明された。

(3)「墓から石が取りのけられていた」というのは、客観的事実である。

①このことは、単なる霊的体験や幻覚ではない。

## 2. 2~3 節

Joh 20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちに分かりません。」

Joh 20:3 そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。

(1) マリアは、ペテロとヨハネに報告した。

①誰かが墓から死体を取って行った。

②「私たち」という複数形の主語を用いている。

\*他の女たちは、自分たちが見聞きしたことを使徒たちに報告した。

③墓に走ったのは、マリアの話を聞いたペテロとヨハネだけだった。

\*2 人の証人の証言は信頼できる。

## 2. 4~5 節

Joh 20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

Joh 20:5 そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。

(1) ヨハネの方が、足が速かった。

①年齢差か。伝承では、ヨハネが使徒たちの中で最も若かった。

(2) ヨハネは先に墓に着いたが、のぞき込んだだけで、中には入らなかった。

①亜麻布が置いてあるのを見た。

\*この状況は、混乱ではなく、秩序を示唆している。

\*「見た」けれど、まだ信仰には至っていない。

②中に入らなかったのは、儀式的汚れを恐れてのことであろう。

③あるいは、ペテロに先を譲ったか。

## 3. 6~8 節

Joh 20:6 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。

Joh 20:7 イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

Joh 20:8 そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。

(1) ペテロは到着すると、中に入って様子を確かめた。

①亜麻布は、イエスの死体をくるんだ状態のままで残されていた。

\*頭に巻かれていた布切れは、離れた所に丸めてあった（たたんであった）。

- ②つまり、イエスのからだは亜麻布を通過してなくなっていた。
- ③これは、復活のからだだが地上のからだとは異なることを示している。
- ④ラザロの場合は、亜麻布を解く必要があった。

(2) ヨハネはペテロに続いて墓に入った。

- ①ヨハネも同じものを見たが、その意味を理解した。
- ②彼は、イエスが復活したことを信じた（初歩的な信仰）。
- ③墓が開いたのは、弟子たちが中に入って確かめるためであった。

#### 4. 9～10 節

**Joh 20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。**

**Joh 20:10 それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。**

(1) これは、ヨハネの感想である。

- ①ペテロとヨハネは、「復活の預言」をまだ理解していなかった。

(2) 墓に居続ける必要はないと判断し、彼らは町のどこかに戻って行った。

- ①体験はみことばの理解によって信仰と結びつく。

## II. マグダラのマリアの体験 (11～18 節)

### 1. 11～12 節

**Joh 20:11 一方、マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。**

**Joh 20:12 すると、白い衣を着た二人の御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、一人は頭のところに、一人は足のところに座っているのが見えた。**

(1) ペテロとヨハネが去っても、マグダラのマリアは墓に残った。

- ①愛する人を失くした喪失感がある。
- ②彼女にとっては、これは「通夜」(寝ずの番)である。
- ③主を慕い求める者に、特別な啓示が与えられた。

(2) 彼女は、墓の中をのぞき込んだ。

- ①そこに二人の天使が、白い衣をまとい座っていた。

\*二人の御使いの配置は、幕屋の贖いの座を意図的に想起させる。

- ②天使が現れる時は、通常、男性の姿を取る。

\*例外的には、イザヤが見たセラフィムの幻がある（イザ 6 : 1～13）。

③彼女には、超自然的なことが起こっているという認識がない。

④御使いの登場は、ユダヤ的背景では「神的承認のしるし」として理解される。

## 2. 13～14 節

Joh 20:13 彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

Joh 20:14 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。

(1) 天使と対話しながら、マリアはそれに気づいていない。

①「女の方、なぜ泣いているのですか」

②「だれかが私の主を取って行きました」

\*主に対する彼女の愛が溢れている。

③「どこに主を置いたのか、私には分かりません」

\*人間の限界と悲しみが示されている。

(2) 彼女はうしろを振り向いた。

①背後に人の気配を感じたのであろう。

②しかし、それがイエスであることが分からなかった。

③「認識できない状態」から「目が開かれる経験」への移行は典型的なパターン。

## 3. 15 節

Joh 20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」

(1) イエスの質問

①「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか」

②マリアを真理へと導く優しい招きである。

(2) マリアの回答

①彼女は、その人を園の管理人（園丁、庭師）だと勘違いした。

②「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります」

③なぜイエスだと認識できなかったのか。

\*涙で目が曇っていた。

- \* イエスの姿があまりにも変化していた。
- \* 神が一時的に霊的盲目状態を作り出された。
- \* 喪失感が深く、正常な判断ができなかった。

#### 4. 16~17 節

Joh 20:16 イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。

Joh 20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

(1) マリアにイエスであるとの認識が生まれた。

- ①旧約聖書で最大の「認識事件」は「私はヨセフです」である（創 45 : 1~3）。
- ②歴史上最大の「認識事件」はイエスを園丁と思ったことである。
- ③イエスを認識するきっかけは、「マリア」という呼びかけである。
- ④善き羊飼いは羊の名を呼び、羊はそれについて行く（ヨハ 10 : 3、4）。
- ⑤終末時代に、ユダヤ人はイエスがメシアであることを認識する（ゼカ 12 : 10）。

(2) 彼女は振り向いた。

- ①ヘブル語で、「ラボニ」と言った。敬愛と親しみを込めた呼びかけ。
- ②「私の先生」というニュアンスが含まれている。

(3) イエスは、マリアがイエスに触れることを許さなかった。

- ①「わたしはまだ父のもとに上っていないのです」がその理由であった。
- ②贖罪の日の大祭司の奉仕に対応している。
- ③イエスはこの後、ご自身の血を携えて天の至聖所に入り、幕屋を清められた。
- ④信者は今「大祭司キリスト」を通して御座に近づける（ヘブ 4 : 14~16）。

(4) マリアへの命令

- ①「わたしの兄弟たちのところに行って」

\* イエスを信じる者たちは、神を天の父とする家族である。

\* ロマ 8 : 29

- ②「わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る」

\* イエスは神の家族の中の長子である。

- \* しかし、イエスと神の関係は、私たちと神の関係とは違う。
- \* イエスの場合は、「わたしの父」である。
- \* 私たちの場合は、「私たちの父」である。

(5) マリアには、新しい使命が与えられた。復活の証人としての使命である。

- ①天使たちを見た。
- ②復活のイエスを見た。
- ③最初の目撃者となった。
- ④よき知らせを伝える者となった。

## 5. 18 節

**Joh 20:18 マグダラのマリアは行って、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた。**

(1) マグダラのマリアは、弟子たちによき知らせを伝えた。

- ①彼女は「使徒たちへの使徒」となったのである。

\* 「私は主を見ました」は、理解をともなった確信的な目撃である。

- ②しかし弟子たちは、彼女の証言を信じなかった（他の女たちの証言も）。

## 今日の信者への適用

### 1. 復活は歴史的事実である。

- (1) 信仰は事実に基づく。
- (2) マリアが最初に見たのは「石が取りのけられた墓」だった。
- (3) ペテロとヨハネも布が整然と置かれているのを確認した。
- (4) 感情ではなく、十字架と復活という確かな出来事を信仰の土台とすべき。

### 2. 復活は悲しむ者への慰めである。

- (1) マリアは墓の前で泣き続けた。
- (2) しかし、主は彼女に優しく語りかけられた。
- (3) 涙のただ中に主は立っておられる。
- (4) 主は、個人的に呼ばれるお方である。

### 3. 復活は新しい関係と使命の始まりである。

- (1) マリアは、復活の証人として遣わされた。
- (2) 「わたしの父、あなたがたの父」
- (3) 復活は信者を神の家族に迎え入れる新しい関係を確立した。